北のとびら

vol.128
令和4年11月

HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

後志南西部特集

特集｜豊かな自然の中で響く芸術祭

蘭越町秋のアートまつり

～0歳から100歳への道しるべプロジェクトin蘭越～

アート巡礼 後志南西部／つくる人in島牧村 吉澤俊輔／ジモトデザイン 喜茂別町・クレードル

伝わる文化　真狩村浦安の舞／ART FILE 吉田卓矢

自然豊かな蘭越町に蒔く文化芸術の種

蘭越町秋のアートまつり

～0歳から100歳への道しるべプロジェクトin蘭越～

PHOTO／表紙・中面：大橋泰之（マカロニ写真事務所）、会場写真：溝口明日花（マカロニ写真事務所）

鮮やかな舞台美術の中でプロのオペラやダンスを披露し、多くの観客を魅了した「蘭越町秋のアートまつり」（2022.9.25開催）。蘭越町の子どもたちが文化芸術に触れる機会をつくりたい――「アートまつり」の実現と成功に向けて尽力したのは、蘭越町の大自然に魅せられた音楽家、芸術家たち。イベントのキーマンである札幌オペラシンガーズ・井出祐子さん、地元農家の田村陽子さん、画家の吉田卓矢さん・彫刻家の吉田みなみさんにお話を伺いました。

アートまつりは多くの才能を育ててくれた蘭越町への恩返し

interview01

札幌オペラシンガーズ 代表

井出 祐子

0歳児から大人まで楽しめる本格的なコンサートを続けている演奏家集団「札幌オペラシンガーズ（通称SOS）」。アートまつりでステージ総合プロデュースを務めたSOSの代表・井出祐子さんが、蘭越町と関わりはじめて15年になります。

「蘭越町には〝蘭越バームホール〟という素晴らしい音楽ホールがあります。私たちは2007年から毎年、そこでワークショップを続けてきました」と井出さん。豊かな自然に囲まれた環境は音楽活動の大きな原動力で、「蘭越町の新鮮な空気の中だと、深い呼吸ができるのです。歌い手にとって呼吸はとても大切なこと。さらに水も野菜もお米も美味しくて、心身ともにリラックスした非常に良いコンディションの中でトレーニングができました」と語ります。

蘭越町の自然がもたらす力を特に実感したのが、このコロナ禍です。「感染状況を考慮しながら例年通り実施したワークショップで、窮屈な場所から抜け出し、大自然の中で開放感を感じながら伸びやかに練習をした受講生たちの成長は、目覚ましいものがありました」と振り返ります。「おかげで来年、札幌文化芸術劇場hitaruで開催されるオペラ公演に、蘭越町で学んだ若い歌い手たちが多数合格することができました」という井出さん。若き才能を育てた蘭越町に恩返しがしたいという気持ちが募り、企画したのが0歳から100歳への道しるべとして、3世代に渡って楽しめる「アートまつり」です。

「田村さん、吉田さんご夫妻という素晴らしい人に巡り合ったことで実現することができました」と井出さん。美しい歌声、鮮やかな舞台美術、温かな拍手と感動に包まれたアートまつりには、蘭越町の未来を担う子どもたちに文化芸術の種を蒔きたいという井出さんの願いが込められていました。

美しい歌声と共に、一緒に踊ったり、歌ったり。会場に集まった子どもも、大人も、それぞれが自由に音楽に心をのせて楽しむ姿は、井出さんの願いが形になった素敵な光景でした。

いで・ゆうこ

1994年北海道唯一のオペラ研修団体「札幌オペラスタジオ」を発足。2015年より演奏家集団「札幌オペラシンガーズ（通称SOS）」として新たに生まれ変わり、代表を務めている。0歳から大人まで楽しめるコンサートなど、オペラをはじめとした音楽を通じて、育児支援や文化芸術の発展を目指した活動を幅広く展開中。

札幌オペラシンガーズ facebook

蘭越町の子どもたちが芸術に触れる選択肢を増やしていきたい

interview02

FARM TAMU-TAMU

田村　陽子

アートまつりの会場内で、来場者に明るく声をかけていたのは、同イベントの実行委員会副委員長・田村陽子さん。結婚を機に蘭越町に移り住み、30年近くになります。田村さんの地域活動の原点はお子さんが小学生の頃、「学校と地域、親たちがひとつになって楽しみながら取り組んだ」というＰＴＡ活動の経験です。以降、田植えや稲刈り体験、蘭越町の魅力を盛り込んだ「ご当地かるた」制作など、農業を営む傍ら、地域の子どもたちの経験づくりに力を注いでいます。

「音楽活動を支えてくれた蘭越町に恩返しがしたい」と、０歳から楽しめるコンサートを企画している人がいると、井出さんを紹介されたのは２年前のこと。「子どもたちが本物の芸術に触れる貴重な機会。なんてありがたく、素敵な話なんだろう！」と共感した田村さんは、井出さんを教育委員会や、町内でアートスクールを開いている吉田さんご夫妻に紹介するなど、つなぎ役となり、実現に向けて奔走しました。

「季節や時間によって変化する山や海に囲まれて過ごす日々は何年経っても飽きることはありません。井出さんや、国内外で活躍する吉田さんご夫妻など、自然豊かなこの土地は魅力的な人をつなげてくれます。今後も子どもたちが文化芸術に触れる選択肢を増やしていきたいです」と、大盛況の会場内で田村さんは笑顔を輝かせます。

たむら・ようこ
大阪出身。結婚を機に蘭越町に移り住み、米、アスパラ、スイートコーン、カボチャ、麦などを作っている。「蘭越町下の句カルタ倶楽部」の代表を務め、町民にしかわからないマニアックなカルタ「ご当地かるた」制作など、子どもたちが町内で文化やアートを楽しむ選択肢を一つでも増やせるように精力的に活動している。

FARM TAMU-TAMU facebook

interview03

Yoshida Art School

吉田　卓矢
吉田　みなみ

２０１９年に蘭越町に移住した画家の吉田卓矢さんと彫刻家の吉田みなみさん。

大きな油絵や彫刻を制作するスペースを都会で確保するのは容易ではないという現実的な理由に加え、「経済中心の社会も否定はしないけれど、少しの不便を感じる暮らしにこそ人間の原点があるのではないか」と、東京で暮らしながら、北海道への移住を決めました。

「油絵や彫刻は、アートの中でもアナログな存在。自然の中での暮らしは私たちの創作活動とも直結します。蘭越町は自然も食べ物も豊かで、北海道の原風景を思わせる景色も魅力的。ここでの暮らしも創作活動のコンセプトの一つにしていきたいと考えました」と移住の経緯を語ります。

２０２０年には「Yoshida Art School」を開設。アートまつりの舞台美術も同スクールで学ぶ子どもたちが担当し、ヘンゼルとグレーテルをテーマにした表情豊かな木や葉、天井から下がるドーナツなど、子どもたちの自由な発想が場内を彩りました。楽しそうに会場を見回す来場者の姿に、吉田さんたちもにっこり。

「自分たちの作品が舞台美術として生かされることは、子どもたちにとっても、非常に良い経験になりました」

よしだ・たくや／よしだ・みなみ
17歳の時に渡米し、ニューヨークとニューハンプシャー州で絵画や彫刻を学ぶ。2019年から蘭越町に移住し、日本とアメリカで個展やグループ展に出品。2020年から彫刻家の吉田みなみとYoshida Art Schoolを開設。作家活動をしながら全ての人がアートを楽しめるよう様々なレッスンを行っている。

Takuya Yoshida WEB

自分達の創作活動に直結する蘭越町の自然の中での暮らし

Event Report / 2022.9.25

藤井風人さん

2FではYoshida Art Schoolの生徒である藤井風人さんの個展を開催。おおらかで色鮮やかな作品に惹きつけられました。

イベント後半は廃校になった小学校を中心に、バリトン歌手の今野博之さんが現存2校を含む全9曲の校歌を披露。プロの歌声で蘇る母校の校歌に、会場内では涙を流す人も。「風光明媚な土地ゆえに、歌詞も曲も雄大なものが多い」と今野さん。

お題に出た動物や植物を、身体を使って表現する「わくわくドキドキいきなりダンス」。リズムにのせてみんな思い思いに全身で表現しました。

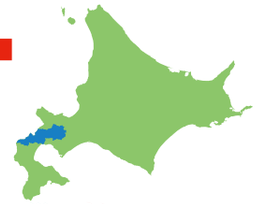
オペラ紙芝居「ヘンゼルとグレーテル」からアートまつりはスタート。お話も歌も、みんなしっかり楽しんでいました。

後志南西部で探すアート

※新型コロナウイルス感染症の状況によって掲載されている営業時間やイベント開催日時等が変更になる場合があります。

刺激がいっぱい
後志南西部のアートスポット

Art JUNREI アート巡礼



05 町の文化を伝える総合施設
寿都町総合文化センター ウィズコム

多目的ホールをはじめ、寿都の歴史を紹介する文化財展示室、図書室、会議室などを備えた多彩な活動を展開できる施設。寿都町の文化発信基地として親しまれています。

●住所／寿都町開進町187-1　●TEL.0136-62-2100
●アクセス／道の駅「みなとま〜れ寿都」より車で3分
●開館時間／9:00〜22:00（文化展示室9:00〜20:00・図書室10:00〜19:00）
※年末年始・お盆期間中は変動あり
●休館日／無休※年末年始を除く（図書室は月曜休）
●入館料／無料　●駐車場／あり　●http://www.town.suttu.lg.jp

06 旬の自然情報や遊び・自然観察の方法を発信
黒松内町ブナセンター

北限のブナ林を中心に、町の自然や歴史を紹介する施設。木工や陶芸の工房や自然に関する図書コーナーも備えています。冬期間はかんじきの貸し出しを実施。周辺の森を散策できます。

●住所／黒松内町字黒松内512-1　●TEL.0136-72-4411
●アクセス／JR黒松内駅より車で約5分
●開館時間／9：30〜17：00（木曜は夜間工房開放のため20：30まで）
●休館日／月曜・火曜（祝日の場合は開館）
●入館料／無料　●駐車場／あり　●http://bunacent.host.jp/

04 作家自らが建てた自宅兼工房で生まれる木工品
木工房 WEST HORSE

木の温かみを大切にした木工家具をニセコ町で20年以上に渡りつくり続ける工房。併設したショップでは、木工品の展示・販売や、オーダー家具の注文も受け付けています。

●住所／ニセコ町ニセコ430-29　●TEL.0136-58-3660
●アクセス／国道5号〜道道66号（ニセコパノラマライン）から、ニセコアンヌプリ国際スキー場方面に50mほど入った右側（看板あり）
●開館時間／11:00〜17:00　●休館日／不定休
●入館料／無料　●駐車場／あり　● https://www.westhorse.biz

03 雪国の文化や暮らしを伝える写真家の作品たち
ニセコウパシギャラリー

世界の雪山を旅するニセコ在住の写真家・渡辺洋一のアトリエ兼ギャラリー。オリジナルプリントの額装、写真集や書籍など、雪国の風土を感じる作品の展示・販売を行っています。

●住所／倶知安町ニセコひらふ4条2丁目5-17 羊蹄の里　●TEL.0136-22-6890
●アクセス／JR倶知安駅より車で約7分
●開館時間／9：00〜18：00・要予約　●休館日／なし
●入館料／無料　●駐車場／あり
●http://yoichiwatanabe.jp

02 昭和レトロな雰囲気が魅力の多目的施設
雪月花廊

廃校になった双葉小学校を自ら改装し、カフェレストラン・ライダーハウス&ゲストハウスなど多目的に楽しめる施設に。併設の史料館では喜茂別や双葉小学校の歴史にまつわる展示も行っています。

●住所／喜茂別町字中里392　●TEL.0136-33-6067
●アクセス／倶知安駅より車で約40分
●営業時間／11:00〜15:00（カフェレストラン）　●休館日／月曜、ほか不定休
●入館料／無料　●駐車場／あり
●https://kimobetsu28.sakura.ne.jp

01 イベントや展示を通し、学んで楽しむ京極町の文化
生涯学習センター湧学館

京極町の今と昔を紹介する歴史資料の展示や、多数の蔵書が楽しめる図書コーナーなど、見どころ豊富な集いの場。映画の上映や陶芸体験などイベントも開催しています。

●住所／京極町字京極158-1　●TEL.0136-42-2700
●アクセス／JR倶知安駅より車で約20分
●開館時間／9:00〜21:00（図書コーナー10:00〜18:00）
●休館日／年末年始（図書コーナーは月曜・祝日、毎月最終平日定休）
●入館料／無料　●駐車場／あり
●http://lib-kyogoku.jp

つくる人 in SHIMAMAKI

家具職人・「さくらの咲くところ」主宰 **吉澤俊輔**

広大なブナの森と渓谷に囲まれた道南最高峰の狩場山。島牧村とせたな町にまたがるこの山を、アイヌの人々は「カリンパ・ウシ（さくらの咲くところ）」と呼びました。

「世界遺産になるような豊かな森があり、そのおかげで豊かな海がある。島牧村は森と海が近く、そのつながりを強く意識できる土地です」と話すのは吉澤俊輔さん。「アイヌの人々が見ていた風景を未来へと繋いでいきたい」という思いを込めた屋号「さくらの咲くところ」で、道産木材を使った家具や木工品づくり、イベントの企画など、様々な活動を通して「自然と共にある暮らし」を提案しています。

ご両親が営むユースホステルで施設内のテーブルや椅子を自作する父親の姿を見て育ち、「自分で使うものは自分でつくる」ことが染み付いたという吉澤さん。ものづくりは家具や木工品だけに留まらず、ホステルの敷地内に建つ自邸も自ら改修。海水を煮詰めて塩を作り、食卓に並ぶ果物やお米もすべて自家栽培です。

吉澤俊輔（よしざわ・しゅんすけ）
島牧村生まれ。島牧ユースホステルを営む両親と共に、豊かな自然の中で育つ。道産木材を使った家具づくりをはじめ、サスティナブルな暮らしを体現すべく自宅をセルフビルドでリノベーション。自然と共にある暮らしを提案している。

こうした自給率の高い暮らしを強く意識するきっかけになったのが東日本大震災。エネルギーに限りがあることを再認識し、太陽光発電パネルを設置。エネルギーや住まい、食べものや暮らしの道具などを提供する出展者が集い、持続可能な暮らしの提案と人と大地の繋がりを大切にした「小さな町の小さなマルシェ」も企画。毎年秋に開催されるこのマルシェは今年で11年目を迎えました。

暮らしに必要なものをつくる、使う、食べる。大自然の中で繰り返すシンプルな営みは、ここ数年のコロナ禍の中でも何ひとつ変わることはありませんでした。

「地球の9割は人間以外の生き物。人間社会の視点ではなく、自然界の視点から考えると、コロナ禍も大きな出来事ではないのかもしれません」と柔らかな笑顔で話す吉澤さん。その言葉には、「自然と共に生きる」ことのかけがえのなさと、力強さがありました。

「しまままのき1歳児記念品支給事業」として、村の子どもに贈る島牧の木を使った積み木もつくっています

ジモトデザイン VOL.5 喜茂別町

日常に溶け込むデザインの魅力に迫る！

喜茂別町から始まった農産缶詰ブランド「クレードル」

▶80年以上変わらないクレードルのブランドマーク。ホワイトアスパラやスイートコーンなど、道産野菜にこだわり抜いた高品質な商品は、道内外の食卓で愛され続けています。

赤字の筆記体で描かれた「Cradle（クレードル）」。このロゴは戦前から道産農産物の加工製造を手掛ける老舗・クレードル興農株式会社のブランドマークです。ホワイトアスパラガスやスイートコーンの缶詰と聞けば、ピンとくる人も多いのではないでしょうか。

ポップでカジュアルな雰囲気のこのロゴですが、誕生したのはなんと1939（昭和14）年のこと。当時としてもかなり洒落ていて、現代にも通じる洗練された雰囲気はまるで海外ブランドのよう。これは海外進出を意識したデザインだと言われています。

クレードル商品は今でこそ多くの家庭で愛用されていますが、創業時は輸出がメイン。海外市場を視野に入れていたため、デザインも海外向けのものとなり、ブランド名も英語表記になったそうです。

企業名の「クレードル」は「揺らん（ゆりかご）」を英訳したもので、その由来になっているのが、喜茂別町のアスパラガス栽培の歴史です。

1924（大正13）年、輸入抑制と北海道の産業開発を図るため、アスパラガスは「冷害にも耐え得る強い作物」として当初は岩内町で栽培されました。しかし、ほどなくして大規模栽培の地として選ばれたのが喜茂別町でした。

寒冷期でも土壌が凍結しない、雪解け後の地温上昇が速やか、土壌の軽軟肥沃さなど、自然的条件が適していたこと、そして村の理事者や農会長がアスパラガス栽培に積極的だったことも決め手になり、農家が主体となって1932（昭和7）年、喜茂別町にクレードル興農の前身「朝日アスパラガス缶詰株式会社」を設立。喜茂別町は大量生産を可能にした土地ということから、「揺らんの地」と呼ばれており、これが「クレードル」の由来となっています。

洗練されたロゴを掲げ、海を渡ったクレードル製品は、農産加工品を世界商品にした業界のパイオニアであり、六次産業の先駆け。ロゴデザインの制作意図などの記録は残されていませんが、ホワイトアスパラガスのパッケージからもリボンをモチーフにしたものと思われます。北海道の良質な食材をリボンを添えて世界へ。そんな願いが込められていたのでしょうか。時代の移り変わりと共に需要も変化し、現在の主力は道産野菜のスープやスイートコーンの缶詰などになりましたが、会社の歴史と共に歩んできたブランドマークは、同社の誇り。長く愛され続けた馴染みのトレードマークであり続けたい、と一度も変えることなく、80年以上が経ちました。「畑から消費者に」をモットーに、高品質な製品を作り続けています。

▲同社のもう一つの看板商品であるスイートコーン。食卓用にレシピが記載された冊子も用意されていて、黄と紺の2色刷りが目を惹くハイカラ仕様（1970年頃発行）

◀北海道の契約農家で栽培された甘味系品種のスイートコーン。商品の写真を見せるなど、消費者がイメージしやすいようなデザインに。

▲北海道産の野菜と乳製品を使用したスープのシリーズ。野菜それぞれの風味が効いている人気商品です。食卓で使われることをイメージした親しみのあるイラストが目を惹きます。

DATA　クレードル興農株式会社／https://www.cradle-kounou.co.jp

ART FILE

吉田卓矢　TAKUYA YOSHIDA

生活の中で出会った人や見たものからインスピレーション

スキー選手を目指して17歳で渡米した私は、言葉や人種の壁を痛感。幼い頃から絵を描くことが好きだったこともあり、このアメリカでの経験をきっかけに「あらゆる壁がない自由で平和な“ありえない世界”」をアートで表現し、世界に発信することを決意しました。

2020年のパンデミックの中、家にこもって描いた作品「Kindness」。人種差別的な事件が起こるなど殺伐とした空気の中で、「やさしさ」を込めた作品を作りたいと願い生まれた。

私は生活の中で出会った人や見たものからインスピレーションを得ています。蘭越町に移住して4年目を迎え、当初は北海道の風景を題材にしていましたが、多くの出会いや経験を経て「風景の中で生活している人々」を描くようになりました。そして、友人と一緒にする薪割りや、畑づくりなど生きることに直結した営み、町や人とのつながりが作品のコンセプトになっています。

今年は北海道の芸術祭や音楽祭に参加する機会がありました。芸術祭や音楽祭は厳しい大地を祝福する讃美歌のようで、厳しくも美しい風景の中で強く生きる一人一人の人生が“きらめく歌”のように感じました。

音楽祭や芸術祭で描いたスケッチや印象、記憶から生まれた「Twinkle Song」（上段左）、一人でピアノに向き合う姿は孤独で少し切なく、でも美しいという思いを描いた「Night Dreamer」（上段中央）、みんなで一つの芸術祭をつくり上げた感動を油絵に残した「Sing Sing say Love」（上段右）など、今回の個展は、芸術祭や音楽祭での経験や心に残った情景を表現した作品を中心に構成しています。

2020年に開校した「Yoshida Art School」には現在100人近い生徒がいます。純粋に表現をする子供たちの姿もまた、私に多くの刺激を与えてくれます。現代のアートの世界では、皮肉やアイロニーを表現することが重要視され、ピュアな表現は少し軽視されているように感じています。しかし、私はピュアな気持ちの表現がアートの原点にあると信じています。そして、子供のようなピュアな表現こそが世の中に対してのアイロニーだと思うのです。

今年の10月に、アメリカのフィリップス・エクセター・アカデミー（PEA）で美術の授業を行う機会がありました。子どもたちが性別や人種を越えて学ぶPEAの環境は、未来に希望を感じさせてくれました。日本も、もっと未来に希望を持てるような教育を目指していけたらいいなと思います。

吉田卓矢

蘭越町在住のアーティスト。2020年から彫刻家の吉田みなみと共にYoshida Art Schoolを開設。
●公式WEBサイト
https://www.yotakpainting.com

入場無料

北海道文化財団アートスペース企画展 vol.50
吉田卓矢「Twinkle Song」
2022.10.25〜2023.1.31　9:00〜17:00 ※土日祝休館　※都合により臨時休館する場合があります。
場所／札幌市中央区大通西5丁目11大五ビル3F　問い合わせ／011-272-0501

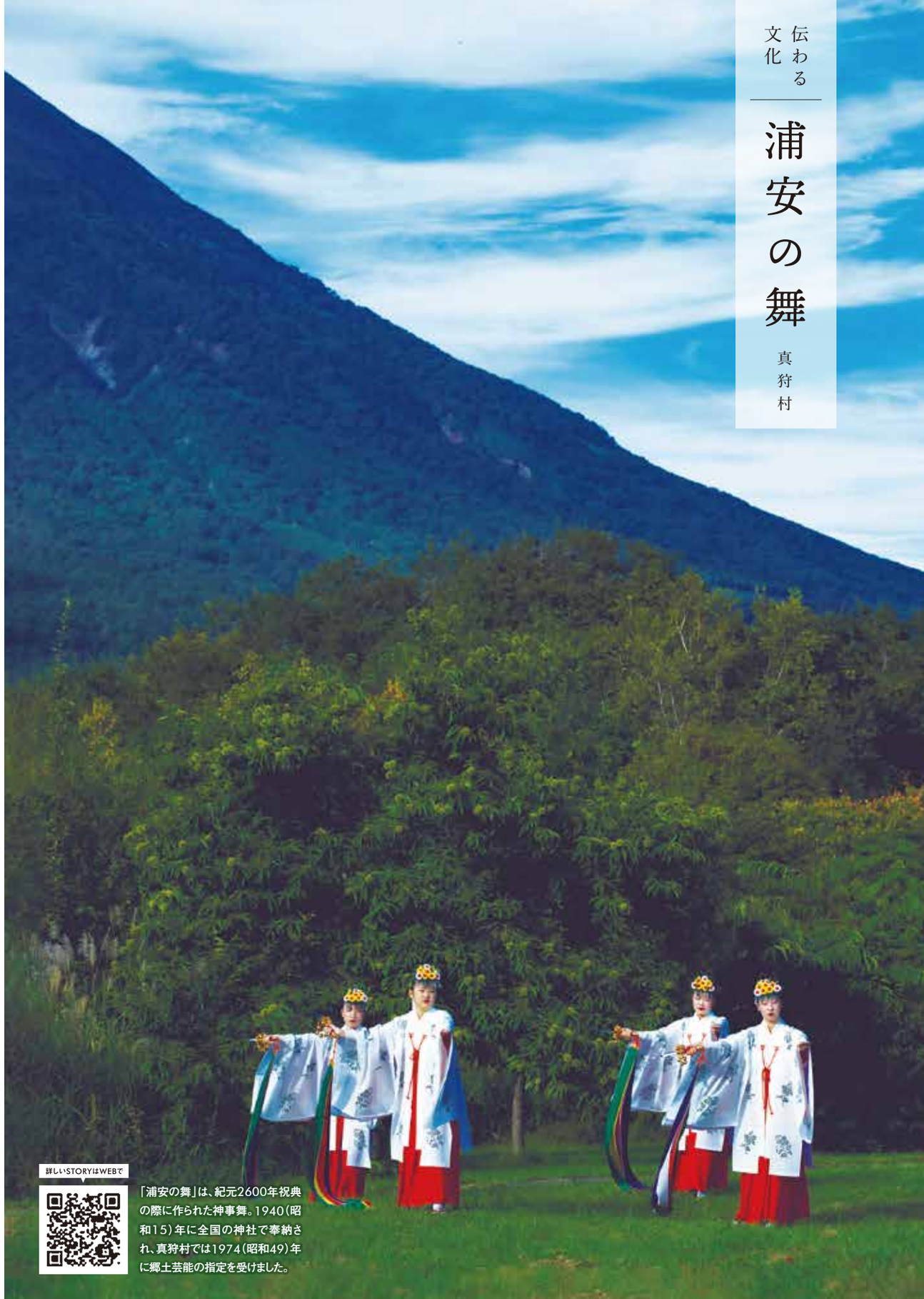
VR展示公開中！ https://my.matterport.com/show/?m=dGAdq7Jhxx2

VR展示はQRコードからも！

伝わる文化

浦安の舞

真狩村



詳しいSTORYはWEBで

「浦安の舞」は、紀元2600年祝典の際に作られた神事舞。1940（昭和15）年に全国の神社で奉納され、真狩村では1974（昭和49）年に郷土芸能の指定を受けました。

財団事業インフォメーション（2022年12月～2023年3月）

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、公演やイベント等の開催が変更または中止になる場合があります。公演等の実施については、事前にそれぞれのお問い合わせ先にご確認ください。また、各公演等の開演時間・入場料については問い合わせ先にご連絡ください。

新進アーティスト育成事業

●北海道高校演劇Special Day
開催日：2023年1月11日（水）～12日（木）
会　場：かでるホール
問い合わせ：（株）ノヴェロ　☎011-281-6680

文化提携交流事業

●北芸亭・寄席演芸講座「瀧川鯉丸のはじめてのらくご」
開催日：2022年12月3日（土）
会　場：北海道立道民活動センターかでる2・7　6階610会議室
問い合わせ：（公財）北海道文化財団　☎011-272-0501

●かでる舞台フェスティバル富良野塾OBグループ
開催日：2023年2月18日（土）
会　場：かでるホール
問い合わせ：NPO法人ふらの演劇工房　☎0167-39-0333

文化交流事業

●シャンカル・ヴェンカテーシュワラン「犯罪部族法」
開催日：2022年12月18日（日）
会　場：しらおい創造空間「蔵」
問い合わせ：NPO法人しらおい創造空間「蔵」　☎0144-85-3101

●第13回 極寒芸術祭 2023年 弟子屈
開催日：2023年2月2日（木）～3月3日（金）
会　場：ARtINn極寒藝術伝染装置（川湯神社北隣）
問い合わせ：てしかがえこまち推進協議会　☎015-482-2940

アートシアター鑑賞事業

●青年団「日本文学盛衰史」
幕別町公演
開催日：2022年12月11日（日）
会　場：幕別町百年記念ホール
問い合わせ：NPO法人まくべつ町民芸術劇場　☎0155-56-8600
富良野市公演
開催日：2022年12月13日（火）
会　場：富良野演劇工場
問い合わせ：NPO法人ふらの演劇工房　☎0167-22-3800
江別市公演
開催日：2022年12月15日（木）
会　場：江別市大麻公民館えぽあホール
問い合わせ：江別演劇プロジェクトWinds　平田修二　☎090-8637-8461

●上方落語の会～寄席囃子と落語歌舞伎～
開催日：2023年2月4日（土）
会　場：古平町中心拠点誘導複合施設
問い合わせ：古平町　☎0135-42-2300

●ヴァイオリンカルテットHIKAblef
開催日：2023年2月12日（日）
会　場：深川市文化交流ホール
問い合わせ：NPO法人アートステージ空知　☎0164-22-3062

●「マミィ！」
中標津町公演
開催日：2023年3月16日（木）
会　場：中標津町総合文化会館
問い合わせ：（一財）中標津町文化スポーツ振興財団　☎0153-73-1131
深川市公演
開催日：2023年3月21日（火）
会　場：深川市文化交流ホール
問い合わせ：NPO法人深川市舞台芸術交流協会　☎0164-23-0320

まちの文化創造事業

●創作市民ミュージカル「夢を追いかける瞳2～あれから10年」
開催日：2022年12月11日（日）
会　場：深川市文化交流ホール　み・らい
問い合わせ：NPO法人深川市舞台芸術交流協会　☎0164-23-0320

●釧路子どもミュージカルキッズロケット結成25周年記念公演
開催日：2022年12月25日（日）
会　場：釧路市生涯学習センター
問い合わせ：釧路子どもミュージカルキッズロケット　☎090-8270-8760

●おびひろ市民ミュージカル第20回公演
開催日：2022年12月25日（日）
会　場：帯広市民文化ホール（大）
問い合わせ：おびひろ市民ミュージカル実行委員会　☎090-3774-3917

●第5回帯広市民バレエ「眠れる森の美女」
開催日：2023年1月22日（日）
会　場：帯広市民文化ホール（大）
問い合わせ：帯広市民バレエ公演実行委員会　☎0155-23-8111

●はこだてトリエンナーレ
開催日：2023年3月11日（土）～3月22日（水）
会　場：北海道立函館美術館、道南いさりび鉄道
問い合わせ：旅する芸術祭実行委員会　☎080-3318-5466

INFO

WEBマガジン「北のとびら」。冊子にはない情報も！ぜひご覧ください。
WEBマガジンはこちらから！ **https://haf.jp/kitanotobira/**